令和４年度岡山市埋蔵文化財センター講座

南方遺跡の構造と変遷

岡山市埋蔵文化財センター
所長　　安　川　　満

1　南方遺跡調査の歴史

1917	大正６	徳富万熊「岡山県に於ける考古学上の調査」『人類学雑誌』第 32 巻第 12 号
1933	昭和 8	水原岩太郎『岡山市考古学通論』文献書房
1934	昭和９	小林行雄「一の伝播変移現象」『考古学』第５巻第１号
1935	昭和 10	末永雅雄編『本山考古室要録』
1938	昭和 13	『弥生土器聚成図録』東京考古学会

・遺物の出土地点毎に蓮田遺跡、宝崎遺跡、関場遺跡、七番町遺跡、十六坪遺跡、日本興油遺跡
・瀬戸内地方における弥生時代中期中葉の標識遺跡として広く認知。

1959	昭和 34	国立病院建設―土器、石器、木製品などが出土。未調査。
1969	昭和 44	山陽新幹線建設に伴う市道のつけかえに伴う発掘調査
1979	昭和 54	国立病院看護婦宿舎建築に伴う発掘調査
1980	昭和 55	国立病院地方循環器病センター建設に伴う発掘調査
1993 ～ 1996	平成５ ～平成８	済生会病院ライフケアセンター建設に伴う発掘調査
1992 ～ 1994	平成４ ～平成６	国体町マンション建設に伴う発掘調査
1994	平成６	国道 53 号線共同溝関連の調査
1995	平成７	国道 53 号線電線の地中埋設に伴う調査
2004	平成 16	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館等の耐震補強事業に伴う発掘調査 広島高裁岡山支部・岡山地家簡裁庁舎建て替えに伴う発掘調査
2005	平成 17	介護老人保健施設たちばな苑の建設に伴う発掘調査
2008 ～ 2009	平成 20 ～平成 21	子育て支援センターの建設に伴う発掘調査
2009 ～ 2010	平成 21 ～平成 22	岡山市立後楽館中学校・高等学校の校舎建設に伴う発掘調査
2010 ～ 2011	平成 22 ～平成 23	岡山法務総合庁舎新営に伴う発掘調査
2013 ～ 2014	平成 25 ～平成 26	済生会病院新病棟建設に伴う発掘調査
2021	令和３	岡山法務局本庁舎の建て替えに伴う発掘調査

2　南方遺跡の構造

〈地形〉

・東西に長い微高地、浅い谷状地形、周辺 (特に南東側) は低湿地

〈構造―居住域と墓域〉

居住域＝竪穴建物 1 ～数棟、掘立柱建物数棟、周囲に廃棄土坑などを伴う単位
　　おおよそ 20 m程度の範囲、10 ～ 20 mの間隔

墓　域＝居住域と分離 (市道、ライフケアセンター、電線地中化、新病院Ⅱ -2 区に集中)

居住域、墓域の分布→３つの集落域（A ～ C)、それぞれの集落域の周辺部に墓域

3　南方遺跡の生産活動

南方遺跡で生産が確認できるもの

・米、土器、サヌカイト製石器、安山岩製の磨製石器、碧玉製の玉類、木製品

・青銅器、ガラスは未確認

米 (農作物)

―石包丁、多量の木製農具、藁灰、稲藁の出土

―南方遺跡周辺で中期の水田跡は未確認→津島遺跡周辺の可耕地まで行き来？

土器

―焼成時の破損品を一括廃棄したとみられる遺構以外生産遺構未確認

　→各居住単位で生産していない。集落内のある程度のまとまりで一括して生産。

　（胎土の採取・焼成などの製作工程、土器の規格性の高さなど）

サヌカイト製石器・安山岩製磨製石斧

―未製品、剥片、チップ、残核、製作道具とみられる礫石器・骨角器

　→出土地点、遺構に特に偏り無し＝各居住単位で生産

碧玉製玉類

―残核とみられる碧玉片が出土

　→特定の居住単位に集中 (新病棟調査区の一部) ＝特定の居住単位によって生産

木製品 (木製農工具)

―製作関連遺構は未検出、未製品多量

　→同一、同系統のものが一括して廃棄されている傾向＝木製品の入れ替えがある程度一括して行われていた？

　→原材の伐採、運搬、前処理＝集落内のある程度のまとまりで一括して生産

　→南方遺跡、南方釜田遺跡で形態差＝集落ごとに生産か？

・生産物によって様々な単位で行われていた

・特定の居住単位で製作されたとみられる玉類を除くと、工房的なものは見いだせない

・磨製石斧や木製品は周辺や広域に供給していた状況は見いだせない。

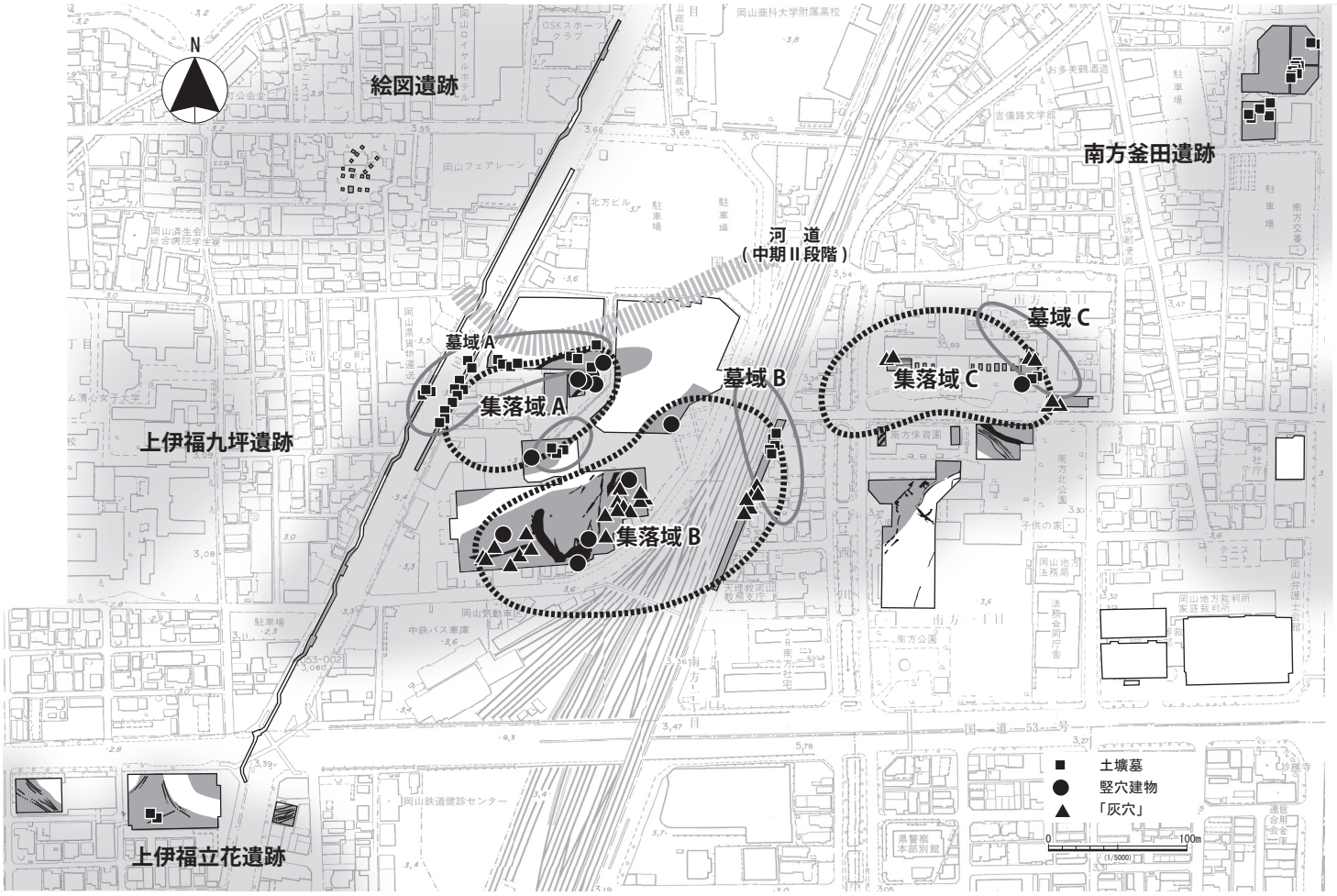


図１　南方遺跡の構造

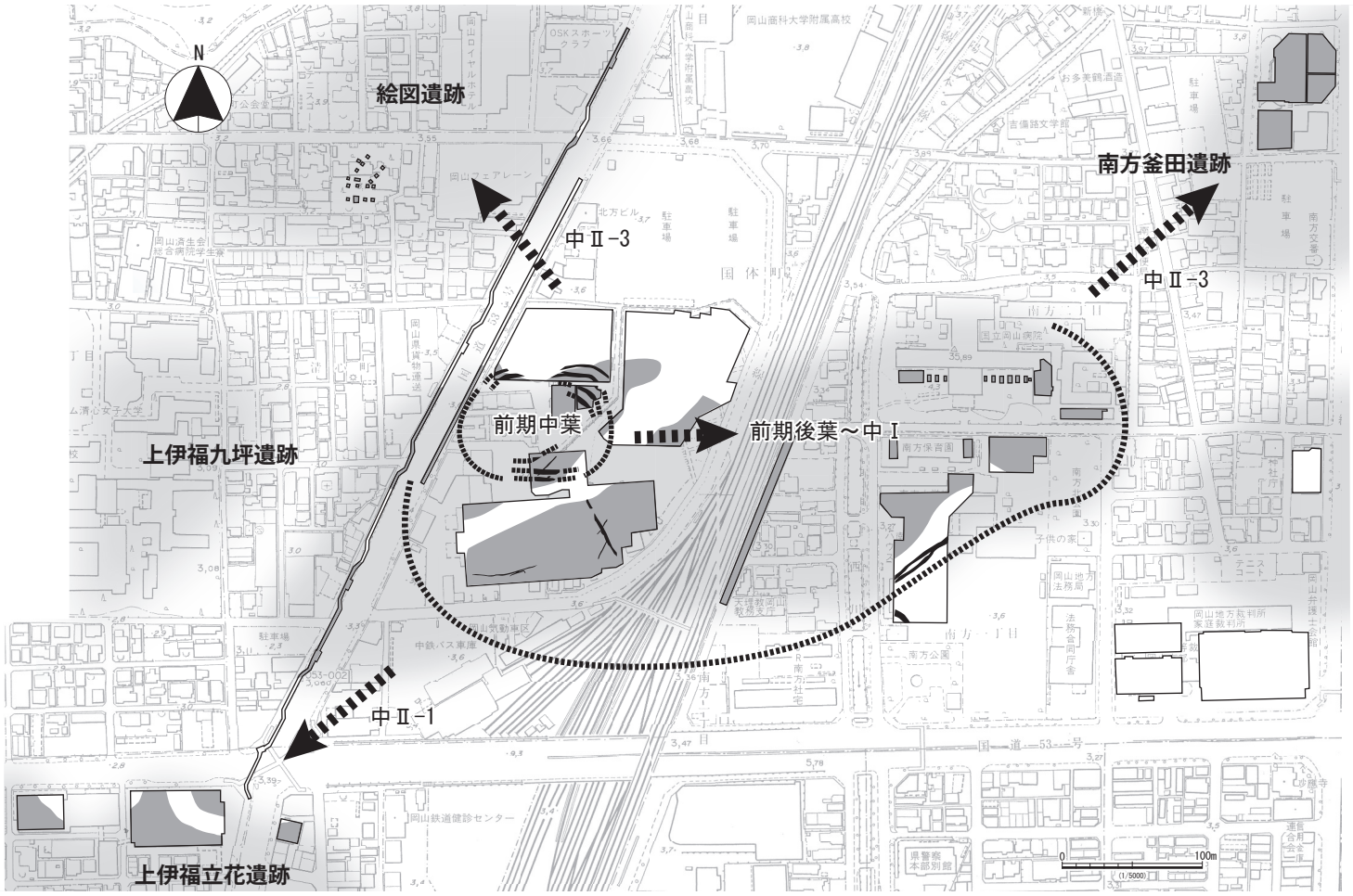


図２　南方遺跡の変遷

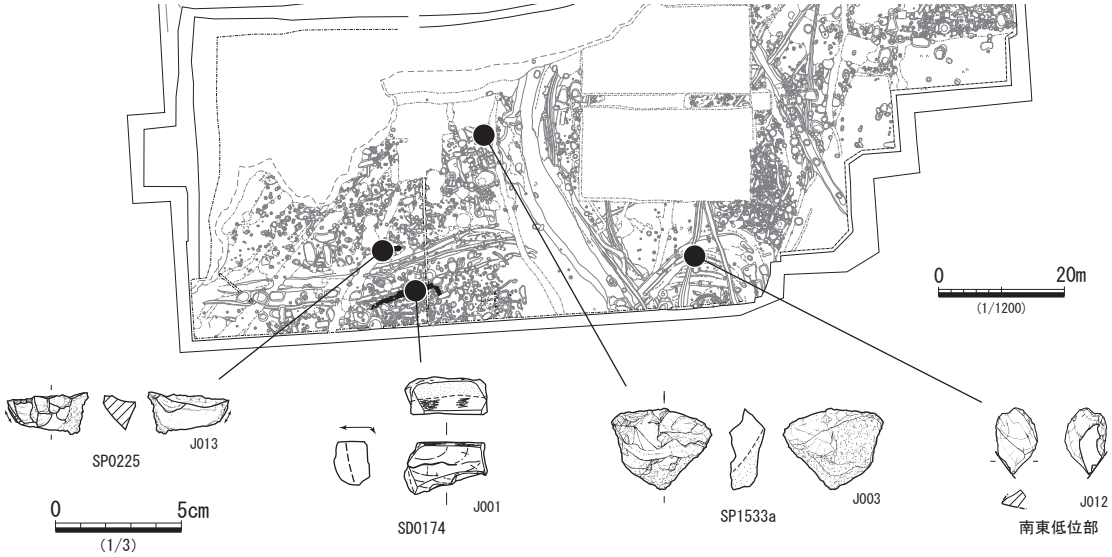
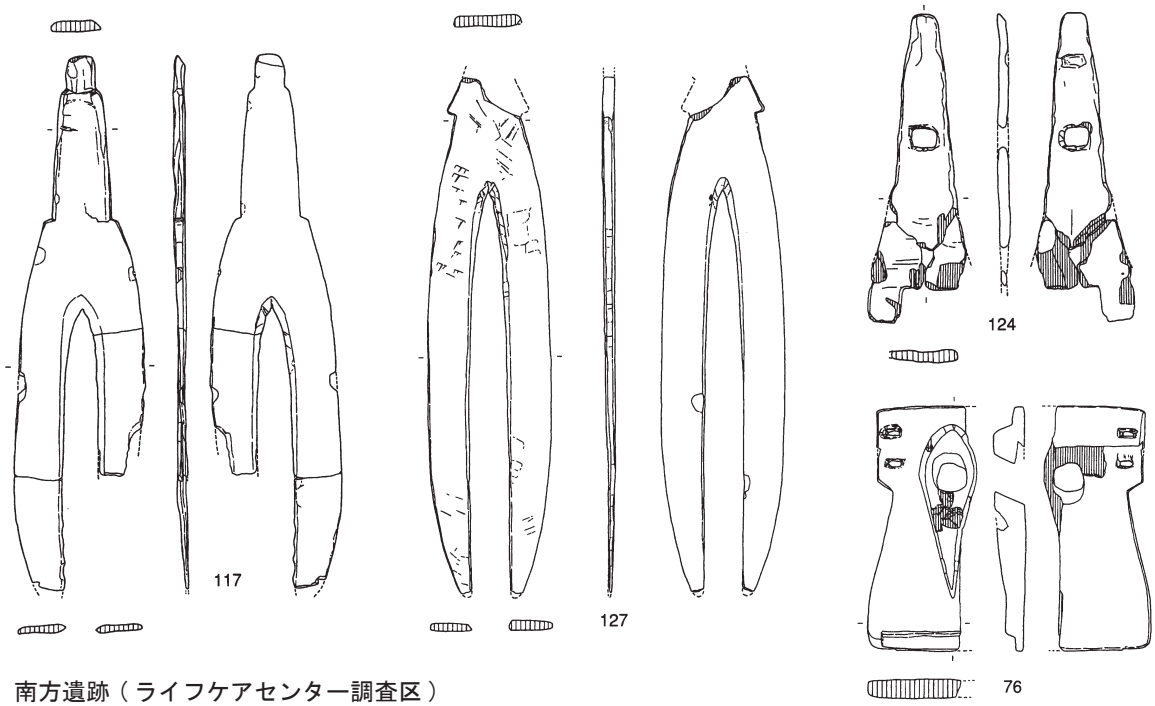
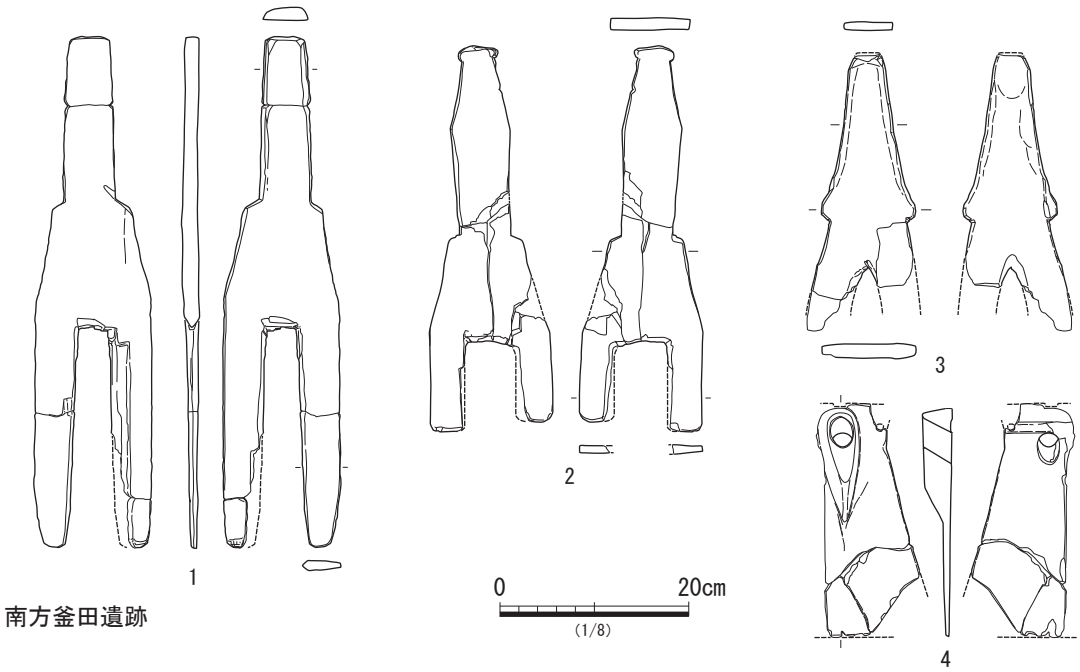


図 3　碧玉関連遺物と出土遺構



南方遺跡（ライフケアセンター調査区）



南方釜田遺跡

図 4　南方遺跡と南方釜田遺跡の木製農具